

北海道大学
サステナビリティ・ウィーク2011
市民セミナー

国立大学フェスタ2011事業



健康を創る 最先端技術と 健康マネジメント

2011年10月16日(日)
13:30~16:30

北海道大学大学院
保健科学研究院6階 会議室

“心の健康”を支援する生体機能計測技術

日立製作所中央研究所ライフサイエンスセンタ

研究員 佐藤 大樹

質量分析が可能にする分子レベルの健康科学

保健科学研究院 健康科学分野

特任准教授 惠 淑萍

ナノテクノロジーは健康科学に どう貢献できるか

保健科学研究院 健康科学分野

特任助教 武田 晴治

地域から世界へ：

拠点としての高度脂質分析ラボ

保健科学研究院 健康科学分野

教授 千葉 仁志

遠隔健康相談システムの挑戦

保健科学研究院 健康科学分野

教授 小笠原 克彦

健康を守る情報ネットワークシステム

厚生労働省政策統括官付社会保障担当参事官室 室長補佐

保健科学研究院 健康科学分野

客員准教授 中安 一幸

北海道大学大学院保健科学研究院健康科学分野設立記念
北海道大学大学院保健科学研究院健康イノベーションセンター
(高度脂質分析ラボラトリー部門／ヘルスネットワークシステム部門)設置記念

主催：北海道大学大学院保健科学研究院
共催：さっぽろバイオクラスター“Bio-S”
(公益財団法人北海道科学技術総合振興センター)
後援：財団法人 さっぽろ産業振興財団

連絡先：北海道大学大学院保健科学研究院 医学系事務部保健科学研究院事務課
TEL 011-706-3315 E-mail: shomu@hs.hokudai.ac.jp URL: <http://www.hs.hokudai.ac.jp>

健康を創る最先端技術と健康マネジメント

2011年10月16日(日) 13:30~16:30 北海道大学大学院保健科学研究院6階 会議室



“心の健康”を支援する生体機能計測技術

(株)日立製作所 中央研究所 ライフサイエンス研究センタ 研究員 佐藤 大樹

【概要】精神的なストレスの増大に伴うメンタルヘルスの不調は、大きな社会的課題となっている。本セミナーでは、人々の行動や脳活動を計測する技術を紹介するとともに、それらの技術をメンタルヘルス不調の予防や早期発見へ応用する試みについて述べる。

【略歴】国際基督教大学教養学部 卒業。東京大学大学院総合文化研究科修士課程を修了後、日立製作所に入社。基礎研究所（現中央研究所）にて、脳機能計測技術「光トポグラフィ」に関する研究に従事、現在に至る。専門は、認知心理学、応用脳科学。博士（工学）。



質量分析が可能にする分子レベルの健康科学

保健科学研究院健康科学分野 特任准教授 恵 淑萍

【概要】中性脂肪やコレステロールなどの脂質が活性酸素によって酸化され過酸化脂質になる。この過酸化脂質は微量ながら、動脈硬化やアルツハイマー病などの病気を引き起こす。液体クロマトグラフィー質量分析法による分子レベルでの過酸化脂質の測定を紹介する。

【略歴】西安医科大学医学部卒業（中国）。首都医科大学付属病院医員（北京）、日本学術振興会外国人特別研究員、北海道医療大学薬学部生命物理科学講座助手、同講座講師等を経て、現職。医学博士（北海道大学）。



ナノテクノロジーは健康科学にどう貢献できるか

保健科学研究院健康科学分野 特任助教 武田 晴治

【概要】一分子やナノスケールでの操作や物性の解析方法について多くの報告がある。これらの方法を健康科学の領域にどのように応用できるか、その可能性について紹介する。

【略歴】北海道大学薬学部卒業、工業技術院産業技術融合領域研究所特別技術補助職員、産業技術総合研究所特別研究員、科学技術振興事業機構CREST研究員、北海道大学創成科学研究機構特任助教を経て現職。博士（薬学）。



地域から世界へ：拠点としての高度脂質分析ラボ

保健科学研究院健康科学分野 教授 千葉 仁志

【概要】脂質は酸化されて初めて毒性を持つことが多く、体内の脂質の酸化度や抗酸化能力を測ることは健康管理や機能性食品開発などの面で重要である。Bio-Sプロジェクトで開発された脂質と酸化脂質の分析技術を、地域や世界に提供する高度脂質分析ラボラトリーが本研究院に開設されたので紹介する。

【略歴】北海道大学医学部卒業、同第二内科医員、同臨床検査医学講座助手、北海道大学病院検査部長、北海道大学医学部保健学科教授を経て現職。博士（医学）、臨床検査専門医、日本臨床化学会理事。



遠隔健康相談システムの挑戦

保健科学研究院健康科学分野 教授 小笠原克彦

(兼)北海道大学病院医療情報企画部、北海道大学環境健康科学研究教育センター

【概要】保健科学研究院では、ネットワーク技術による健康維持と健康推進を目指し、調剤薬局の薬剤師と保健科学研究院に設置した遠隔健康相談室の看護師・保健師が連携した健康相談を試みている。実証実験で得られた300件を超える健康相談の概要、および東日本大震災の被災地での遠隔健康支援活動について紹介する。

【略歴】北海道大学医療技術短期大学部卒、医学博士（北海道大学）、MBA（小樽商科大学）。エイズ予防財団リサーチレジデント、学術振興会特別研究員、北海道大学助手・助教授を経て現職。平成20年マサチューセッツ工科大学客員研究員。現在、社会的な視点から医療情報学・医療管理学の研究を行っている。



健康を守る情報ネットワークシステム

厚生労働省政策統括官付社会保障担当参事官室 室長補佐

保健科学研究院健康科学分野 客員准教授 中安 一幸

【概要】現在、遠隔医療システムや遠隔保健システムなど様々な「健康を守るためのネットワークシステム」が試みられている。しかし、社会基盤としてのこれらのシステムは、個人情報保護・プライバシー、ID基盤、セキュリティなど解決すべき課題も多い。内含する課題等について考察し、医療情報政策の観点から解決に向けた制度的検討、技術的検討の方向性を模索する。

【略歴】厚生労働省医政局研究開発振興課医療機器・情報室などを経て、政策統括官付社会保障担当参事官室において社会保障分野の情報化を担当。厚生労働省大臣官房統計情報部企画課情報企画室、内閣官房情報通信技術（IT）担当室、内閣官房情報セキュリティセンターを併任。